

失敗から発展する ご縁もある



仕事においてはどんなミスも避けるべく最大限の注意を払っていますが、それでも、時にやらかしてしまふことがあります。恥を忍んで最近のお恥ずかしい失敗を告白しますと、取材先の相手の名前を誤記したまま活字にしてしまったのです。

6月に東京・銀座ポーラミュージアム・アネックスで開催されていた打掛の展覧会「絵を纏う」の記事を経済紙に書いたときでした。ファッションディレクター若槻せつ子さん(75)が集めた打掛500点のコレクションの中から厳選された13点が、ガラス越しではなく、間近で全方向から見ることができるよう工夫されていた圧巻の展示でした。

この打掛コレクターである若槻さんのことを紹介するにあたり、「岩槻」と誤記してしまったのです。お名前を間違えるなどもつてのほか。気付いたのは活字が出た後で、若槻さんには平身低頭して謝り、次の週には訂正記事も出してもらいました。

若槻さんは、間違えられることが多いので気にしないでいい、とご寛恕くださいました。経済紙の校閲部も通ってしまったのは、ネットに「岩槻」という名で紹介された記事も散見されたからでした。とはいえそんなことは言い訳にもなりません。いったん思い込むとそう見えてしまう人間の目には用心すべきと強く自戒した次第です。強めの老眼鏡を買えという話なのかもしれません。

さて、その後。若槻さんは、怒るところか記事を書いてくれたことが嬉しいと言って、着物をリメイクしたドレスの作品写真集を送ってくださいました。

モダンで豪華なドレスの数々は実にすばらしく、とりわけその中の一点が、11月に国立能楽堂で行う予定の講演に着るのにぴったりのイメージでした。さっそく厚かましくもおおずかずと、ドレスを着用させていただけるものかどうか、若槻さんに伺ったところ、レンタルはしていないが特別に貸与してくださるといってお返事をいただきました。



なかのかおり

1962年生まれ、富山市出身。服飾史家として研究・講演・執筆をおこなうほか、昭和女子大学客員教授、企業の顧問を務める。株式会社Kaori Nakano代表取締役。東京大学大学院修了。英国ケンブリッジ大学客員研究員、明治大学特任教授などを務めた。著書に、「イノベーター」で読むアパレル全史(日本実業出版社)、「ロイヤルスタイル 英国王室ファッション史」(吉川弘文館)ほか多数。

ところで、11月に着ることになった着物ドレスはモデルサイズの一点もので、あと15cmサイズダウンしなくてはならなくなりました。これもまた間違いから巡り巡って生まれたミッシェン。しかと立ち向かいます。……って大丈夫かな?(4回後の本欄に続く)